

「大戸屋」で山梨市売り込み

同市出身の社長が快諾

山梨市は、県外在住者に市内観光を売り込むため、県内外で定食専門店を展開する大戸屋（本社東京都、三森久美社長）の直営店にリーフレットを設置している。若者同士や家族連れが多く訪れる同店に置いてもらうことで効率的な宣伝が可能と郷土出身の三森社長に依頼し、実現した。「全国展開するチェーン店が自治体PRに協力するのは異例」（市観光課）といい、関東地域にある九十九店舗が山梨市の「広告塔」を担う。

関東99店舗に観光チラシ

峡東

市観光課と大戸屋によると、リーフレットを扱うのは

六都県の「大戸屋ごはん処」。三月から県内三店舗のほか、東京六十一、神奈川十二、千葉十一、埼玉十一、群馬一の各店舗でレジやドリンクバー近くに置き、来客者に持

ち帰ってもらっている。本社入り口にも置いてあるという。

中村照人市長が昨年、都内で三森社長と面会した際に「店舗にリーフレットを置かせてほしい」と要請し、快諾された。同社担当と市観光課職員が内容を話してきた。

リーフレットはA5判カラーの三つ折りで、二十五万部作製。「恋人の聖地」に認定されている笛吹川フルーツ公園の風景写真を表紙に使い、市内の観光スポットを紹介する地図、果物狩りや花の見て

るの期間などの情報を掲載した。食事が届く前に眺めてもらい、持ち帰ってもらうことを想定している。

同課は「カップルや若い子どもがいる家庭は出掛ける機会が多い。大戸屋の客層を考えると、メリットは大きい」と期待。同社経営企画部は「山梨市は会社にとって縁のある土地。できる範囲で地域活性化に協力していきたい」と話している。



山梨市が「大戸屋ごはん処」で配布しているリーフレット(右)＝甲府市和戸町